

## I. 2016年度事業報告 (2016年3月1日から2017年2月28日まで)

### 1 庶務報告

#### (1) 総会

第60回（2016年度）定時総会を2016年5月23日、東京大学中島董一郎記念ホール（東京都文京区弥生1-1-1）において開催し、次の議案を可決した。

第1号議案 計算書類等の承認の件

第2号議案 名誉会員承認の件

#### (2) 理事会、委員会の開催

2016年度（2016年3月1日から2017年2月28日）は下記のとおり開催した。

理事会（6回）5月6日、5月23日、7月7日、10月6日、12月1日、2月8日

業務担当理事連絡会（5回）5月16日、6月30日、9月30日、11月24日、2月2日

授賞選考委員会（2回）11月10日、12月10日

学術活動強化委員会（1回）3月28日

和文誌編集委員会（3回）3月30日、6月4日、9月24日

和文誌運営委員会（2回）6月4日、9月24日

英文誌編集委員会（1回）3月30日

英文誌編集総務会（1回）12月22日

産学官学術交流委員会（3回）3月29日、9月12日、12月14日

広報委員会（3回）3月29日、7月28日、12月15日

財務委員会（5回）5月16日、6月30日、9月30日、11月24日、2月2日

JABEE対応委員会（1回）3月30日

男女共同参画委員会（1回）3月29日

役員候補者等選考委員会（2回）7月22日、12月15日

合併等検討委員会（1回）8月12日

農芸化学女性賞等授賞選考委員会（1回）11月30日

札幌大会実行委員会（3回）3月4日、4月8日、5月27日

京都大会実行委員会（4回）7月12日、8月29日、11月11日、12月20日

名古屋大会実行委員会（1回）9月26日

#### (3) 会員の状況

2016年度（2017年2月28日現在）の会員数は次のとおりである。

	2016年度	2015年度	増減
名 誉 会 員	15	16	-1
有 功 会 員	199	199	0
シニア会員	363	345	18
一 般 会 員	6,989	6,773	216
教 育 会 員	66	49	17
学 生 会 員	2,801	2,717	84
国 外 会 員	58	55	3
団 体 会 員	269	274	-5
賛 助 会 員	98	102	-4
(口数)	(203)	(215)	(-12)
合計	10,858	10,530	328

#### 1) 有功会員

2016年10月開催の第345回理事会の議決により次の8名の会員が有功会員として承認された。

平 秀晴氏、島崎敬一氏、大澤俊彦氏、徳田 元氏、松本 清氏、戸坂 修氏、藤田泰太郎氏、松富直利氏（生年月日順）

#### 2) フェロー

2016年10月開催の第345回理事会の議決により次の32名の会員がフェローとして承認された。

安部康久氏、稻垣賢二氏、生方 信氏、江坂宗春氏、遠藤銀朗氏、大澤俊彦氏、大東 肇氏、尾添嘉久氏、小田耕平氏、加藤陽治氏、河合富佐子氏、河岸洋和氏、木村 誠氏、熊谷日登美氏、河野憲二氏、齋藤忠夫氏、澤 嘉弘氏、須貝 威氏、關谷次郎氏、田中啓司氏、西村弘行氏、深見治一氏、福田恵温氏、福田雅夫氏、牧 正敏氏、宮澤陽夫氏、三輪 操氏、柳田晃良氏、山田耕路氏、山田 守氏、山本万里氏、横井川久己男氏（五十音順）

#### （4）研究業績の表彰、奨励

2016年度は日本農芸化学会賞2件、日本農芸化学会功績賞2件、農芸化学技術賞4件、農芸化学奨励賞10件の授賞式を行った。

また、授賞選考委員会の選考を経て本会から各財団等に対して推薦した候補者のうち、下記の様に受賞、採択された。

（公財）農学会・第15回日本農学進歩賞：1件

日本学術振興会・第13回（平成28年度）日本学術振興会賞：1件

内藤記念科学振興財団・第48回（2016年度）内藤記念海外学者招聘助成金：1件

日本農学会・平成29年度日本農学賞：1件

（日本農学賞授与式、読売農学賞授与式、受賞祝賀会：2017年4月5日 東京大学山上会館）

第6回三島海雲学術賞：1件

#### （5）研究発表会、シンポジウム、講演会等の開催

##### 1) 2016年度全国大会

2016年度全国大会は2016年3月27日から30日までの4日間、札幌市教育文化会館大ホール、ホテルロイトン札幌、札幌コンベンションセンター、札幌市産業振興センター（北海道札幌市）を会場として開催した。大会第1日目（3月27日）は札幌市教育文化会館大ホールにおいて、学会賞等授賞式、第13回農芸化学研究企画賞表彰式、BBB関係表彰、相談役会、学会賞等受賞者講演が、またホテルロイトン札幌において大会懇親会が盛大に行われた。大会第2日目～第4日目（3月28日～30日）は札幌コンベンションセンターおよび札幌市産業振興センターにおいて、ポスター発表による一般講演（2,131題）、シンポジ

ウム（25テーマ・139題）の発表と討論、ランチョンセミナー（15社・15題）、ミキサー、展示会（90社・113小間）が開催された。また、高校生による「ジュニア農芸化学会」のポスター発表（39題・39校）が開催され、大変盛況であった。大会期間中は託児ルームが開設された。大会参加者数は4,323名であった。

### 2) 第42回農芸化学「化学と生物」シンポジウム

第42回農芸化学「化学と生物」シンポジウム「壁を越える化学と生物」は、2016年3月27日に、札幌市教育文化会館大ホールにおいて開催され、約700名の参加者があった。

### 3) 第23回農芸化学Frontiersシンポジウム

第23回農芸化学Frontiersシンポジウムは、2016年3月30日～31日に定山渓ビューホテル（北海道札幌市）にて、講演会・シンポジウムが開催され、92名の参加者があつた。また、エクスカーションとして（国研）産業技術総合研究所・完全密封型遺伝子組換え植物工場を見学した。

### 4) Visionary農芸化学100シンポジウム

2015年に学術活動強化委員会が企画した「Visionary農芸化学100」は4つのグループ研究領域「食・腸内細菌・健康研究領域」「微生物・バイオマス研究領域」「天然物化学研究領域」「食品機能研究領域」において、本会100周年に向け、それぞれのテーマにおけるシンポジウムを開催するものである。その第1回として、2016年10月2日に京都大学益川ホール（京都府京都市）にて、食・腸内細菌・健康研究領域のシンポジウム「食、腸内細菌、健康」が開催され、約200名の参加者があつた。

## （6）国際会議、国際シンポジウムの共催・協賛・後援

### 【2016年】（9件）

- ・日本アミノ酸学会10周年記念大会（東大）《協賛》（9月11日～13日）
- ・プロテイン・アイランド・松山 国際シンポジウム2016（愛媛大）《後援》（9月15日～16日）
- ・第9回国際PCBワークショップ（神戸）《後援》（10月9日～13日）
- ・農業ワールド2016（幕張）《後援》（10月12日～14日）
- ・第3回国際こめ油会議（東大）《後援》（10月24日～25日）
- ・第55回NMR討論会（広島）《協賛》（11月16日～18日）
- ・International Conference on Single Cell Research 2016（東大）《協賛》（11月16日～17日）
- ・第21回静岡健康・長寿学術フォーラム（静岡）《後援》（11月25日～26日）
- ・第2回アクアフォトミクス国際シンポジウム（神戸大）《協賛》（11月26日～28日）

### 【2017年】（6件）

- ・第22回名古屋メダルセミナー（名古屋大）《協賛》（1月27日）
- ・8th International Conference on Electroceramics (ICE2017)（名古屋大）《協賛》（5月28日～31日）

- ・第29回不斉に関する国際会議 29th International Symposium on Chirality (Chirality 2017; ISCD-29)（早稲田大）《共催》（7月9日～12日）
- ・The IVth International Conference “Molecular Life of Diatoms”（神戸）《後援》（7月9日～13日）
- ・残留性有害物質に関する国際会議 (ISPTS2017)（名古屋大）《後援》（9月24日～28日）
- ・第14回国際バイオミネラリゼーションシンポジウム「The 14th International Symposium on Biomineralization」（つくば）《後援》（10月9日～13日）

### （7）その他本会の共催・協賛・後援による国内学術集会

### 【2016年】（64件）

- ・平成28年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業（岩手）《後援》（4月1日～8月31日）
- ・“未来へのバイオ技術”勉強会「健康食の今昔」（東京）《協賛》（4月21日）
- ・“未来へのバイオ技術”勉強会「コスメティック・サイエンス～お肌に潤い、心に癒しを」（東京）《協賛》（4月26日）
- ・“未来へのバイオ技術”勉強会「美味しさの尺度と可視化」（東京）《協賛》（6月22日）
- ・構造活性フォーラム 2016（淡路）《協賛》（6月24日）
- ・平成28年度JABEE農学系分野審査講習会（東大）《協賛》（6月25日）
- ・御前崎・牧之原「先生のオリザニン」（牧之原）《後援》（6月26日）
- ・公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2016」（東京）《後援》（7月4日）
- ・“未来へのバイオ技術”勉強会「驚異の動物イノベーション」（東京）《協賛》（7月4日）
- ・日本包装学会第25回年次大会（神戸大）《協賛》（7月7日～8日）
- ・“未来へのバイオ技術”勉強会「バイオ素材百花繚乱～容器包装と物流のエコイノベーション」（東京）《協賛》（7月14日）
- ・“未来へのバイオ技術”勉強会「植物が鍵を握る産業連関～農業、医薬、食品、化粧品」（東京）《協賛》（7月25日）
- ・日本プロテオーム学会2016年大会（北里大）《後援》（7月28日～29日）
- ・第6回高校生バイオサミット in 鶴岡（慶應大）《後援》（7月31日～8月2日）
- ・平成28年度 女子中高生夏の学校 2016～科学・技術・人との出会い～（埼玉）《協賛》（8月6日～8日）
- ・第30回日本キチン・キトサン学会大会（川越）《協賛》（8月18日～19日）
- ・“未来へのバイオ技術”勉強会「海洋メタゲノミクスの産業応用と国際戦略」（東京）《協賛》（8月22日）
- ・第29回におい・かおり環境学会（東京家政大）《協賛》

- 
- (8月30日～31日)
- ・第25回日本バイオイメージング学会学術集会（名市大）《協賛》(9月4日～6日)
  - ・第33回有機合成化学セミナー（ニセコ）《共催》(9月6日～8日)
  - ・2016年度日本冷凍空調学会年次大会（神戸大）《協賛》(9月6日～9日)
  - ・JASIS2016（幕張）《後援》(9月7日～9日)
  - ・新学術領域研究（研究領域提案型）平成28～32年度 生物合成系の再設計による複雑骨格機能分子の革新的創成科学 領域略称名「生合成リデザイン」 キックオフシンポジウム（東大）《協賛》(9月10日)
  - ・第54回粉体に関する討論会（登別）《協賛》(9月12日～14日)
  - ・“未来へのバイオ技術” 勉強会「バイオ素材百花繚乱10～やわらか＆バリア＆ストレッチャブル」（東京）《協賛》(9月13日)
  - ・第67回コロイドおよび界面化学討論会（北海道教育大）《協賛》(9月22日～24日)
  - ・第14回高付加価値食品開発のためのフォーラム（裾野）《協賛》(9月23日～24日)
  - ・第52回熱測定討論会（徳島大）《協賛》(9月28日～30日)
  - ・第39回ケモインフォマティクス討論会（旧情報化学討論会）（静岡大）《共催》(9月29日～30日)
  - ・第8回サクラン研究会年次学術集会（熊本大）《協賛》(10月1日)
  - ・第9回トランスポーター研究会九州部会（宮崎）《後援》(10月1日)
  - ・大豆のはたらき in 東京—子供の栄養・健康を通して—（東京）《後援》(10月13日)
  - ・2016土壤・地下水環境展（東京）《協賛》(10月19日～21日)
  - ・第53回ペプチド討論会（京都）《共催》(10月26日～28日)
  - ・第33回ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム2016（東京）《協賛》(10月26日～28日)
  - ・第57回高圧討論会（筑波大）《協賛》(10月26日～29日)
  - ・第61回リグニン討論会（京大）《共催》(10月27日～28日)
  - ・“未来へのバイオ技術” 勉強会 産学連携オープンイノベーション企画「深海・深海微生物のポテンシャル～JAMSTEC深海サンプル提供事業のご紹介」（東京）《協賛》(10月28日)
  - ・第60回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（東農大）《協賛》(10月29日～31日)
  - ・“未来へのバイオ技術” 勉強会「感性の評価と商品開発～触覚・かわいい感・脳機能～」（東京）《協賛》(11月1日)
  - ・第63回界面科学部会秋季セミナー（葉山）《協賛》(10月31日～11月1日)
  - ・第13回日本たまご研究会（Egg Science Forum 2016）（京女大）《後援》(11月1日)
  - ・第14回糖鎖科学コンソーシアムシンポジウム（東京）《後援》(11月1日～2日)
  - ・日本希土類学会第34回講演会（大阪）《協賛》(11月4日)
  - ・第10回多糖の未来フォーラム（名古屋大）《共催》(11月8日)
  - ・2016年度オレオマテリアル部会（関東支部）セミナー（東理大）《協賛》(11月10日)
  - ・第4回受託分析研究懇談会（東京）《協賛》(11月10日)
  - ・第15回食品レオロジー講習会（東大）《協賛》(11月10日～11日)
  - ・第110回有機合成シンポジウム（早稲田大）《共催》(11月10日～11日)
  - ・第49回酸化反応討論会（徳島大）《共催》(11月12日～13日)
  - ・第44回構造活性相関シンポジウムおよび第31回農薬デザイン研究会（京大）《協賛》(11月16日～17日)
  - ・平成28年度後期（秋季）有機合成化学講習会（東京）《共催》(11月16日～17日)
  - ・第6回食と生命のサイエンス・フォーラム「ヒトの健康と腸内菌叢」（東大）《後援》(11月22日)
  - ・第16回基準油脂分析試験法セミナー（東京）《協賛》(11月24日～25日)
  - ・内閣府SIP「次世代機能性農林水産物・食品の開発」公開シンポジウム（東京）《後援》(12月5日)
  - ・サイエンスエキスポ2016（大阪）《後援》(12月6日～8日)
  - ・革新的環境技術シンポジウム2016～エネルギー・環境技術のイノベーションによるゼロエミッション社会の構築～（東大）《後援》(12月7日)
  - ・第43回炭素材料学会年会（千葉大）《協賛》(12月7日～9日)
  - ・第185回腐食防食シンポジウム（中央大）《協賛》(12月8日)
  - ・第43回有機典型元素化学討論会（仙台）《共催》(12月8日～10日)
  - ・アグロ・イノベーション2016（東京）《協賛》(12月14日～16日)
  - ・理研シンポジウム 第17回分析・解析技術と化学の最先端（理研）《協賛》(12月16日)
  - ・第18回生体触媒化学シンポジウム（明星大）《共催》(12月21日～22日)
  - ・ERATO浅野酵素活性分子プロジェクト研究成果報告会（東京）《後援》(12月22日)
- [2017年] (44件)**
- ・“未来へのバイオ技術” 勉強会「青藍（あい）の時代：色素が癒やす腸疾患」（東京）《協賛》(1月12日)

- ・“未来へのバイオ技術” 勉強会「動物実験代替法の現状と展望」(東京)《協賛》(1月13日)
  - ・第28回高分子ゲル研究討論会 (東大)《協賛》(1月16日～17日)
  - ・理研シンポジウム「小胞体糖修飾の統合的ケミカルバイオロジー」(理研)《協賛》(1月20日)
  - ・第22回高専シンポジウム in MIE (鳥羽)《協賛》(1月28日)
  - ・新学術領域研究 (研究領域提案型) 平成28～32年度生物合成系の再設計による複雑骨格機能分子の革新的創成科学領域略称名「生合成リデザイン」第一回公開シンポジウム (東大)《協賛》(1月28日)
  - ・(公社) 日本栄養・食糧学会関東支部第19回脂質栄養シンポジウム (東京)《後援》(2月4日)
  - ・2017年産業技術総合研究所中部センター研究講演会 (名古屋)《協賛》(2月13日)
  - ・“未来へのバイオ技術” 勉強会「スーパーフードは世界を変える？！」(東京)《協賛》(2月21日)
  - ・“未来へのバイオ技術” 勉強会「骨から診た日本人の起源と健康」(東京)《協賛》(2月27日)
  - ・第5回低温・氷温研究会 (米子)《後援》(3月4日)
  - ・“未来へのバイオ技術” 勉強会&バイオビジネスセミナー「スマートコンとAIが実現するIT創薬」(東京)《協賛》(3月7日)
  - ・“未来へのバイオ技術” 勉強会「ICTと農業をつなぐ～AI（アグリインフォマティクス）の現状と展望」(東京)《協賛》(3月22日)
  - ・公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2017—環境汚染と内部被曝問題—」(長崎大)《後援》(5月13日)
  - ・第33回希土類討論会 (鳥取)《協賛》(5月15日～16日)
  - ・第28回食品ハイドロコロイドシンポジウム (東京海洋大)《協賛》(5月16日)
  - ・食品ハイドロコロイドセミナー2017 (東京海洋大)《協賛》(5月17日)
  - ・第27回万有福岡シンポジウム (九州大)《協賛》(6月3日)
  - ・第19回マリンバイオテクノロジー学会大会 (東北大)《協賛》(6月3日～4日)
  - ・第15回ホスト-ゲスト・超分子化学シンポジウム (立命館大)《協賛》(6月3日～4日)
  - ・日本ケミカルバイオロジー学会第12回年会 (北大)《後援》(6月7日～9日)
  - ・第111回有機合成シンポジウム (岡山大)《共催》(6月8日～9日)
  - ・第67回日本電気泳動学会シンポジウム (産総研)《後援》(6月9日)
  - ・新規素材探索研究会第16回セミナー (横浜)《共催》(6月9日)
  - ・日本ゾル-ゲル学会第14回セミナー (豊橋)《協賛》(6月9日)
  - ・平成29年度前期（春季）有機合成化学講習会 (東京)《共催》(6月14日～15日)
  - ・第28回万有仙台シンポジウム (仙台)《協賛》(6月24日)
  - ・第29回万有札幌シンポジウム (北大)《協賛》(7月1日)
  - ・第54回アイソトープ・放射線研究発表会 (東大)《協賛》(7月5日～7日)
  - ・第12回トランスポーター研究会年会 (東北大)《後援》(7月8日～9日)
  - ・セルロース学会第24回年次大会 (岐阜大)《協賛》(7月13日～14日)
  - ・第36回日本糖質学会年会 (旭川)《共催》(7月19日～21日)
  - ・第58回機器分析講習会 第2コース：HPLCとLC/MSの基礎と実践《初級者、中級者のための実務講座》(慶應大)《協賛》(7月26日～28日)
  - ・第7回高校生バイオサミット in 鶴岡 (慶應大)《後援》(7月27日～29日)
  - ・日本ゾル-ゲル学会第15回討論会 (阪府大)《協賛》(8月7日～8日)
  - ・第31回日本キチン・キトサン学会大会 (沖縄)《協賛》(8月23日～24日)
  - ・環境微生物系学会合同大会2017 (東北大)《後援》(8月28日～31日)
  - ・第34回シクロデキストリンシンポジウム (愛知学院大)《共催》(8月31日～9月1日)
  - ・第61回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会 (金沢工大)《共催》(9月9日～11日)
  - ・第34回有機合成化学セミナー (金沢)《共催》(9月12日～14日)
  - ・第59回天然有機化合物討論会 (札幌)《共催》(9月20日～22日)
  - ・第62回リグニン討論会 (名古屋大)《共催》(10月26日～27日)
  - ・第47回複素環化学討論会 (高知)《共催》(10月26日～28日)
  - ・第16回レオロジー講習会 (東大)《協賛》(11月9日～10日)
- (8) 2016年度支部主催等による学術集会**
- 北海道支部 (2件)
- ・2016年度第1回支部講演会およびシンポジウム「水圈生物と農芸化学の接点—生命・食・環境」(函館, 8月6日～7日)
  - ・2016年度第2回支部講演会 (北大, 11月23日)
- 東北支部 (4件)
- ・支部シンポジウム「農芸化学研究の漸次独創」(東北大, 7月9日)
  - ・2016年度支部「若手の会」(山形, 10月8日)

- ・2016年度支部大会（山形大, 10月9日）
- ・2016年度市民フォーラム「日本食のグローバル展開を考える」（東北大, 11月5日）

#### 関東支部（12件）

- ・2016年度共催事業 日本獣医生命科学大学平成28年度前期総合文化講座「農芸化学的アプローチから食品を科学する」（日獣大, 5月20日, 5月27日, 6月24日, 7月1日）
- ・2016年度第1回支部例会 受賞講演・シンポジウム「微生物の代謝と天然物化学」（東農大, 6月25日）
- ・バイオサイエンス・スクール 2016（日大, 8月3日）
- ・若手発案企画・2016年度グラム陽性菌ゲノム機能会議（熱海, 8月29日～30日）
- ・若手発案企画・第10回昆虫ワークショップ（静岡, 8月30日～9月1日）
- ・2016年度第2回支部例会 トピックス賞受賞講演（日獣大, 9月10日）
- ・2016年度支部大会（日獣大, 10月15日）
- ・大村智先生ノーベル生理学・医学賞受賞記念講演会（日獣大, 10月15日）
- ・若手発案企画・第15回微生物研究会（日大, 11月5日）
- ・2016年度企業イベント～企業研究員からのメッセージ～part1（東大, 11月19日）
- ・2016年度第3回支部例会 受賞講演・シンポジウム「腸管機能、食品・栄養研究の最前線」（日大, 12月10日）
- ・2016年度企業イベント～企業研究員からのメッセージ～part2（日獣大, 2017年2月18日）

#### 中部支部（3件）

- ・第176回例会「農芸化学の先端へ—農芸化学奨励賞受賞講演ならびに基調講演—」、企業展（岐阜大, 7月9日）
- ・第177回例会 ミニシンポジウム「触媒機能の活用に向けた微生物研究の新展開」および一般ポスター発表、企業展（名古屋大, 9月24日）
- ・第178回例会若手シンポジウム「生物学的および化学的食品リスク因子とその制御法」（静岡, 11月26日）

#### 関西支部（8件）

- ・支部例会（第494回講演会）（京府大, 5月21日）
- ・支部例会（第495回講演会）（阪府大, 7月9日）
- ・支部大会（第496回講演会）（大津・滋賀県立大, 9月16日～17日）
- ・賛助企業情報交換会および産学官連携シンポジウム 2016（サントリー（株）, 10月28日）
- ・JSBBA KANSAI 3rd Student Forum（神戸大, 11月5日）
- ・支部例会（第497回講演会）（神戸大, 12月3日）
- ・支部例会（第498回講演会）（京大, 2017年2月4日）
- ・賛助企業-学生交流企画「もっと知ろう賛助企業」（京大, 2017年2月4日）

#### 中四国支部（10件）

- ・支部創立15周年記念第22回若手研究者シンポジウム

- 「極限環境微生物の環境適応機構と産業利用～好熱菌から深海微生物まで～」（高知大, 4月23日）

- ・支部創立15周年記念第23回若手研究者シンポジウム「農芸化学の未来開拓セミナー（第8回）」（岡山大, 5月20日～21日）
- ・支部創立15周年記念第45回講演会（例会）（香川大, 6月11日）
- ・支部創立15周年記念第24回若手研究者シンポジウム「農芸化学に取り組む若手研究者の異分野交流会」（水産大学校, 7月28日～29日）
- ・支部創立15周年記念第28回市民フォーラム「バイオテクノロジーってなあに？」（広島, 9月3日, 9月10日）
- ・支部創立15周年記念支部大会（第46回講演会）（高知・高知大, 9月15日～16日）
- ・支部創立15周年記念第29回市民フォーラム「美しき分子の世界」（高知, 9月17日）
- ・支部創立15周年記念第30回市民フォーラム「老いも若きもビタミンでいきいき！」（鳥取短大, 10月8日）
- ・支部創立15周年記念第31回市民フォーラム「身のまわりの食品を見直してみよう！～知って得する「食品のおいしさに関わる成分と安全性」～」（山口, 11月5日）
- ・支部創立15周年記念第47回講演会（例会）（島根大, 2017年1月28日）

#### 西日本支部（5件）

- ・第314回支部例会（福岡, 5月27日）
- ・第53回化学関連支部合同九州大会（第315回支部例会）（北九州, 7月2日）
- ・支部創立80周年記念シンポジウム—農芸化学の未来を拓くフロントランナー—（長崎大, 9月15日）
- ・2016年度西日本支部大会（第316回支部例会）（長崎大, 9月16日）
- ・第317回支部例会、支部奨励賞受賞講演、特別講演会（九大, 2017年1月21日）

#### （9） JABEE（日本技術者教育認定機構）対応委員会報告

- 1) 2016年度には、農学一般関連分野では1件の継続審査（実地審査）があり、オブザーバー1名を派遣した。また、生物工学および生物工学関連分野では2件の継続審査（実地審査）があった。さらに、2件の普及指導活動（個別指導）があった。
- 2) 2016年6月25日に「JABEE 農学系分野審査講習会」が東京大学で開催された。本会からは3名が参加した。また、JABEE 審査員研修会の1泊研修が7月4～5日（船橋）、8月1～2日（船橋）に、日帰り研修が7月11日（東京）に開催され、本会からは、2016年度の継続審査にあたるオブザーバーが参加した。
- 3) （公財）農学会技術者教育推進委員会および農学一般関連分野審査委員会（4月15日, 1月11日, 東京大学）に委員長が参加するとともにJABEEのあり方等について意見を提出し、連携を図った。

- 4) JABEE分野別委員会（生物工学及び生物工学関連分野）（12月26日、大阪）に委員長が参加し、生物工学関連分野の2件のプログラム審査を行い、生物工学および生物工学関連分野との連携を図った。
- 5) 日本農芸化学会2016年度札幌大会時（3月30日）に、JABEE ランチョンシンポジウム「技術者・研究者人生における技術士資格の意義とメリット」を開催し、112名の参加者があった。

**（10）関係団体等への委員等への推薦**

- 1) 最高裁判所へ知財専門委員候補者3名を推薦した。
- 2) 大学評価・学位授与機構に機関別認証評価専門委員候補者1名を推薦した。
- 3) 内藤記念科学振興財団に選考委員候補者1名を推薦した。

**2 広報委員会報告**

**（1）サイエンスカフェの開催（全11回）**

\*<sup>1</sup>三省堂書店と共に、\*<sup>2</sup>日本学術会議農芸化学分科会と共に、\*<sup>3</sup>神戸大サイエンスショップと共に、\*<sup>4</sup>京都カラスマ大学・有斐斎弘道館と共に

2016年度サイエンスカフェは以下のとおり全11回開催した。サイエンスカフェのFacebook, Twitterを開始した。

1 [第89回] (東京)\*<sup>1,\*2</sup>「微生物からのすばらしい贈り物」(4月23日、三省堂書店神保町本店2階UCC カフェコンフォート) 講師：葛山智久氏、コーディネーター：西川 拓氏、参加者数20名

2 [第90回] (函館)\*<sup>2</sup>「食品の色素はすぐれもの」(9月3日、函館市地域交流まちづくりセンター) 講師：細川雅史氏、コーディネーター：栗原秀幸氏、参加者数18名

3 [第91回] (札幌)\*<sup>1,\*2</sup>「自然に教わるバイオマスの使い方」(9月3日、三省堂書店札幌店BOOKS&CAFE (UCC)) 講師：高須賀太一氏、コーディネーター：石塚 敏氏、参加者数21名

4 [第92回] (東京)\*<sup>1,\*2</sup>「食べ物の「おいしさ」を感じる仕組み」(9月24日、三省堂書店神保町本店2階UCC カフェコンフォート) 講師：三坂 巧氏、コーディネーター：西川 拓氏、参加者数21名

5 [第93回] (秋田)\*<sup>2</sup>「伝統野菜で地域を元気に！」(10月16日、秋田県立大学図書館ラーニングコモンズ) 講師：吉尾聖子氏、吉澤結子氏、コーディネーター：吉澤結子氏、参加者数40名

6 [第94回] (岩手)\*<sup>2</sup>「日本酒を造る酵母の科学」(10月29日、マリオス盛岡地域交流センター18階186会議室) 講師：下飯 仁氏、米倉裕一氏、コーディネーター：下飯 仁氏、参加者数19名

7 [第95回] (名古屋)\*<sup>2</sup>「生活の中の身近な化学—酵素の不思議な働き—」(11月25日、名古屋市科学館東館食堂キーズカフェ名古屋市科学館店) 講師：間瀬民

生氏、コーディネーター：小池田 聰氏、参加者数38名

8 [第96回] (神戸)\*<sup>2,\*3</sup>「黒大豆で健康を維持しよう」(11月26日、にしむら珈琲御影店3階フレンドサロン)、講師：芦田 均氏、コーディネーター：伊藤真之氏、木岡紀幸氏、参加者数22名

9 [第97回] (京都)\*<sup>2,\*4</sup>「基礎研究を知ろう～意外に身近に棲む微生物の凄い能力を通じて～」(12月10日、有斐斎弘道館) 講師：由里本博也氏、コーディネーター：京都カラスマ大学、木岡紀幸氏、参加者数18名

10 [第98回] (那覇)\*<sup>2</sup>「沖縄の伝統発酵食品「とうふよう」をつくる紅麹菌の話」(1月28日、おもろまちの酒屋 エンジェルシェア) 講師：橋 信二郎氏、コーディネーター：平良東紀氏、参加者数15名

11 [第99回] (金沢)\*<sup>2</sup>「科学でよみとく食べ物の秘密～みのまわりのバイオテクノロジー～」(2月26日、カフェ ラモーダ)、講師：本多裕司氏、小柳 喬氏、中谷内 修氏、栗原 新氏、コーディネーター：南博道氏、参加者数31名

**（2）学校教育における農芸化学の普及活動補助の選考**

2016年度は1件の申請があり、広報委員会で審議した結果、1件を普及活動補助として採択した。

1「理科授業リカレントセミナー」(2016年8月23日、宇部工業高等専門学校) 申請者：三留規誉氏（宇部工業高等専門学校物質工学科准教授）、補助額200,000円

**（3）大会トピックス賞の表彰**

2016年度大会一般公演（ポスター発表）2,131題から28演題を選定し、ポスター発表終了後、対象者に郵送にて賞状を送付した。

**（4）大会記者発表**

3月22日に東京（東大農学部）において報道各社を招き記者会見を開催した。新聞、出版関係者14社15名に学会及び2016年度大会の広報資料を配布し、学会長から学会の紹介と大会の全体紹介を、さらに広報担当理事がトピックス28演題の紹介、解説を行なった。

**（5）農芸化学関連全国大学院研究科・専攻一覧の改訂**

学会ホームページ上の農芸化学関連全国大学院研究科・専攻一覧の改定を行った。現在、学部の追加を進めている。

**（6）会員向けメール配信**

**1) ニュースメールの配信**

メールアドレス登録会員向けニュースメールを2016年度は22回配信した。メールアドレス登録者は2017年2月現在約7,446名。

**2) 支部メールの配信**

2016年度から支部の会員に限定し、支部からの案内メールの配信を開始し、北海道支部2件、関東

- 支部3件、関西支部8件の配信を行った。
- 3) 案内メールの配信
- ニュースメールとは別に、講演会やセミナーの案内等、各委員会からのお知らせのメール配信を開始した。2016年度は10回配信した。
- (7) バナー広告
- 年次大会ホームページに設置した画像をクリックすることにより広告となるバナー広告は2017年2月現在で5社に利用されている。
- (8) 企業ロゴマーク
- 学会ホームページに設置したランダムで表示される企業ロゴマークは2017年2月現在で28社に利用されている。
- (9) 出前授業（2016年度全12回開催）
- 1 [第30回] 2016年3月15日（火）大阪学芸中等教育学校「今話題の『腸内フローラ』って？～ヒトが共に生きる道を選んだ‘ビフィズス菌’～」講師：片山高嶺氏（京都大学大学院教授）聴講者：中学3年生～高校2年生40名
- 2 [第31回] 2016年3月16日（水）守口市立八雲中学校「生活を豊かにする理科—国際的視点と職業選択一」講師：Pramote Khuwijitjaru氏（京都大学大学院客員准教授、シラパコーン大学准教授）聴講者：中学校2年生 生徒114名
- 3 [第32回] 2016年3月18日（金）八千代松陰中学校「身近な食べ物の健康パワー—抗酸化作用を中心の一」講師：江草 愛氏（日本獣医生命科学大学講師）聴講者：中学校 生徒24名
- 4 [第33回] 2016年3月19日（土）安積高等学校「組換えDNA技術と私たちの生活」講師：米山 裕氏（東北大学大学院 准教授）聴講者：生徒33名、教員6名
- 5 [第34回] 2016年4月30日（土）安積黎明高等学校「高校での研究活動が、大学・大学院での研究につながる」講師：渡辺正夫氏（東北大学教授）聴講者：生徒40名
- 6 [第35回] 2016年6月18日（土）かかみがはら航空宇宙科学博物館「食品のミクロな世界を学ぼう」講師：岩本悟志氏（岐阜大学准教授）聴講者：37名
- 7 [第36回] 2016年7月22日（金）北海道稚内高等学校「生きるとは、学ぶとは～生命・食・環境を学ぶ農芸化学の視点から～」講師：松井博和氏（北海道大学名誉教授）聴講者：全日制高校生551名、定時制高校生32名
- 8 [第37回] 2016年8月18日（木）大分県立大分鶴崎高等学校「オワンクラゲの遺伝子を導入して光る微生物を作ろう！～DNA抽出と遺伝子組換え実験～」講師：藤原秀彦氏（藤原秀彦）聴講者：理系生物選択者37名
- 9 [第38回] 2016年10月14日（金）熊本県立宇土高等学校「植物（特に食品中）の色素変化とこれを利用した機能性食品の製造・開発例」講師：田丸靜香氏（福岡工業大学准教授）聴講者：高校1年生および2年生 生徒25名
- 10 [第39回] 2016年11月16日（水）秋田県立花輪高等学校「和食は長寿食?!」講師：都築 育氏（東北大学大学院准教授）聴講者：高校1年生および2年生 生徒27名
- 11 [第40回] 2017年2月13日（月）北豊島中学校・高等学校「農芸化学の成果と食品の研究」講師：熊谷日登美氏（日本大学教授）聴講者：中学3年生 24名
- 12 [第41回] 2017年2月24日（金）杉並区立東田中学校「「減塩につながる」うま味成分」講師：二宮くみ子氏（味の素株式会社）聴講者：生徒103名  
出前授業の申請書について、申請書および遺伝子組換え申請書、報告書の書式を更新した。
- 3 学術活動強化委員会報告
- (1) 補助金の交付
- 「国際学術集会」
- 外国人等講演会（申請なし）
- 国際シンポジウム（申請3件、採択2件）
- No. 20 「5th International Workshop on Deep-Sea Microbiology」（9月10日～11日、京都大学益川ホール）《協賛》
- No. 22 「US-Japan Seminar on the Biosynthesis of Natural Products for Young Researchers」（2017年3月4日～5日、東京工業大学大岡山キャンパス 西9号館 ディジタル多目的ホール）《協賛》
- 「薮田講演会・薮田セミナー」
- 薮田講演会（申請なし）
- 薮田セミナー（申請1件、採択1件）
- No. 118 「革新的酵素設計を志向したタンパク質の高次構造形成と機能デザインの最前線」（11月30日、奈良先端科学技術大学院大学）
- (2) 農芸化学「化学と生物」シンポジウムの開催
- 第42回農芸化学「化学と生物」シンポジウム（3月27日、札幌市教育文化会館大ホール 参加者約700名）を「壁を越える化学と生物」と題して開催した。
- (3) 第23回農芸化学Frontiersシンポジウムの開催
- 第23回農芸化学Frontiersシンポジウム（3月30日～31日、定山渓ビューホテル、参加者92名）は6題の講演が開催され、エクスカーションとして国研（産業技術総合研究所・完全密封型遺伝子組換え植物工場を見学した。
- (4) ジュニア農芸化学会2016の開催
- ジュニア農芸化学会2016（3月28日、札幌コンベンションセンター）では、高等学校39校による39題のポスター発表が行われ、423名の参加者があった。
- (5) 日本農芸化学会フェローについて
- 日本農芸化学会フェローについて、2016年度は32名の

推薦があった。委員会で32名を選考し、フェロー候補者として理事会に諮り承認された。フェロー制度規程の変更により、候補者として名誉会員、有功会員の推薦が可能となった今回、有功会員の推薦およびフェローとなっている会員の種別変更があり、フェローとして有功会員8名が就任することとなった。

(6) Visionary 農芸化学100 (Visionary NOUGEIKAGAKU 100: vision for the 100th anniversary and future) の企画

2015年度に開催した本委員会合宿での研究課題の検討から、「Visionary 農芸化学100」と銘打ち、「食・腸内細菌・健康研究領域」「微生物・バイオマス研究領域」「天然物化学研究領域」「食品機能研究領域」の4つのグループ研究領域を立ち上げ、それぞれのテーマにおけるシンポジウムを開催することとなった。2016年度は、「食・腸内細菌・健康研究領域」の第1回シンポジウム「食、腸内細菌、健康」(10月2日、京都大学益川ホール)を開催し、約200名の参加者があった。

(7) 日本学術会議大型マスタートップラン 2017への応募

日本学術会議大型マスタートップラン 2017へ本委員会で検討し、作成した4件について、農芸化学会として応募を行った。いずれもが大型研究計画検討分科会において定める学術研究計画案に内定した。そのうち2件が重点大型研究計画案を策定するためのヒアリング対象として選ばれた。

#### 4 和文誌編集委員会報告

委員会において「化学と生物」誌の企画・編集を行い、年12冊を発行した。

委員会は企画・編集にあたって生命科学全般に関する話題を基礎から応用にわたってバランスよく取り上げ、読みやすい誌面をつくるよう努めた。

53巻3号(2015年3月)より「化学と生物」のオンライン版を開始し、会員は冊子体到着より早く、学会ホームページのマイページよりオンラインで公開となった記事を見ることができるようになったが、2016年秋より、下記のように更に改良を行った。

- ・毎月の発刊日の会員への配信メールにおいて、記事タイトルをクリックするだけで直接記事にアクセスできるようにした。
- ・Facebook や Twitter の公式アカウントを設置し、スマートフォン等で気軽に記事にアクセスできるようにした。

また、オンライン版のPDFファイルに「化学と生物」と「日本農芸化学会」のロゴを入れることで、同記事への両者の関わりを示した。さらに55巻1号より表紙を変更してキャッチコピーを入れ、また、長い記事には内容をわかりやすく説明するコラム欄を設けることで、専門外の人にも内容の面白さが伝わるようにした。

#### 5 英文誌編集委員会報告

(1) BBB の冊子体・オンライン版の発行を小宮山印刷

工業・J-STAGE から英國 Taylor & Francis 社に変更し3年目となり順調に発行されるようになった。契約により1号あたりの頁数が180頁前後(年間2064~2208頁)に減少していたが、2016年発行分より1号あたりの頁数を220頁前後(年間2472~2640頁)に増加させ、早期公開として掲載される期間を短縮し、より早く本公開が可能となった。

(2) 2016年1月~12月の投稿数は前年より49編少ない734編、掲載数は前年より18編多い336編であった。また、掲載論文の総頁数は400頁多い2570頁であった。これは前述の契約変更をおこなったことによる。

投稿から掲載までの期間は、平均190日(2015年は205日、最短98日)、早期公開までが平均112日(2015年は108日、最短42日)、審査期間は平均68日(2015年は61日、最短8日)である。1号あたりの掲載頁を増加したことにより正式公開までの期間が15日短縮された。

(3) BBB の国際的認知度を上げるため、80巻9号に「糸状菌」の特集号、また81巻1号に2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智名誉会員の特集号(化学と生物54巻1号の和訳)を掲載し、一定期間Free Accessとして無料公開した。

(4) 英文誌78巻からOpen Access(論文を掲載直後にFree Accessで閲覧可能、且つ著者や出版社に許可なしで図表の引用が可能)論文の掲載も行っている。80巻では3編(79巻は1編)であった。

(5) 英文誌80巻掲載のRegular Paper 260編のうち優れた論文10編を選出し論文賞とした。

(6) 毎年、過去3年に掲載されたRegular Paper, Note のうち、被引用回数の多かった論文をMost-Cited Paper Awardとして表彰しているが、2017年1月末までに最も引用回数の多かった論文の被引用回数が従来のものより少なかったため、本年のMost-Cited Paper Awardは無とした。

(7) 過去3年に掲載されたReview のうち最も被引用数の多かった論文に対する表彰としてMost-Cited Review Awardを新設し、英文誌78巻、79巻掲載のReview全25編のうち、2017年1月末までに最も引用回数の多かったReviewをMost-Cited Review Awardとした。

#### 6 産学官学術交流委員会報告

(1) 第14回農芸化学研究企画賞の公募・選考

3つの重点研究領域(①先導的生物活性物質研究と新技術開発、②機能性食品素材および食品、③グリーンバイオテクノロジー)において、公募・審査を行い、下記の3件を受賞テーマとして選考した。また、公募にあたっては、広報活動を強化し、会員宛に募集案内のメールを配信した。応募数は24件であった。

重点研究領域① 先導的生物活性物質研究と新技術開発

(応募10件、採択1件)

受賞者: 伊藤康博氏 ((国研) 農業・食品産業技術総

## 合研究機構食品研究部門)

受賞テーマ：ゲノム編集による果実成熟制御の解明と高品質果実の作出

重点研究領域② 機能性食品素材および食品（応募4件、採択なし）

重点研究領域③ グリーンバイオテクノロジー（応募10件、採択2件）

受賞者：芦内 誠氏（高知大学農林海洋科学部）

受賞テーマ：“ホモキラルポリ- $\gamma$ -グルタミン酸”生合成装置の分子解析と微生物工学利用

受賞者：藤井克彦氏（山口大学大学院創成科学研究所）

受賞テーマ：消化汚泥を基質とした水素発酵に関するバイオテクノロジー基盤研究

第14回農芸化学研究企画賞の副賞として、下記18社より27口の御寄附をいただいた。

アサヒグループホールディングス(株), 味の素(株), 天野エンザイム(株), (株)カネカ, キッコーマン(株), 協和発酵キリン(株), キリン(株), 月桂冠(株), サッポロホールディングス(株), サントリーウエルネス(株), 第一三共(株), 日東薬品工業(株), 長谷川香料(株), 不二製油(株), (株)明治, 森永乳業(株), ヤマサ醤油(株), ライオン(株)

昨年度の残余分を含めた結果、本年も残余分（80万円）が生じた。残余分は、第15回農芸化学研究企画賞副賞の一部として繰り越すこととした。

### （2）第11回農芸化学研究企画賞受賞者最終報告の和文誌へ掲載推薦

農芸化学研究企画賞の認知度向上と成果の広報を目的として、本会和文誌「化学と生物」へ企画賞受賞者の最終報告掲載を推薦することに関して、第11回企画賞受賞者3件を本委員会から和文誌編集委員会へ推薦した。

### （3）産学官学術交流フォーラム

札幌コンベンションセンターで開催された日本農芸化学会2016年度大会において、2016年3月29日（火）に、産学官学術交流委員会・産学官若手交流会（さんわか）主催で、産学官学術交流フォーラムを開催した。参加者は385名で盛況であった。内容は、

#### 第1部 農芸化学研究企画賞発表会

第13回農芸化学研究企画賞受賞者研究企画発表会

第12回農芸化学研究企画賞受賞者中間報告会

第11回農芸化学研究企画賞受賞者最終報告会

ポスターディスカッション

#### 第2部 シンポジウム「地方創生！！表示制度を活かせるか？産学官連携で探る地域食品の未来」

#### 第3部 技術交流会（ミキサーとの共催）

### （4）産学官若手交流会（さんわか）による活動

・5月16日（月） 東京大学 弥生講堂一条ホール

第26回さんわかセミナー「実学からイノベーションを興す MOT」開催

## 参加者115名

・7月25日（月） 農林水産省、科学技術振興機構（JST）交流訪問「国の産学官連携支援制度を知る～JST、農水省～」

参加者 さんわか13名

・9月24日（土） 名古屋大学

中部支部例会にてさんわかの活動をポスター発表

・2017年1月23日（月） 東京大学中島董一郎記念ホール 第28回さんわかセミナー「農食事業における現場のニーズから生まれた研究成果とその将来像の紹介」開催

参加者約40名

## 7 財務委員会報告

財務委員会は次の議題について議論と課題共有を図り、一部は理事会に諮った。

### [学会運営全般]

①女性会員への表彰、②各種委員会の女性委員比率向上、③年次大会運営、④合併検討委員会の発足、⑤国外在住外国人会員会費の金額変更、⑥新経理業務システムの導入、⑦ジュニア農芸化学会及びフロンティアシンポジウムの学活委員会から大会事業への移管、⑧大会の持ち回り支部再検討、⑨技術賞の選考の在り方

### [財政・予算関連]

①熊本地震の被災者に対する会費及び冊子体購読料の減免措置、②2017年度予算案（全体、支部別、大会、委員会別、事務職員人件費、支部引当特定資産、大会要旨閲覧用アプリ）、③2016ランチョンセミナー収益金

### [契約関連]

①監査契約、②業務委託契約、③年次大会委託契約、④ホームページ保守運用契約、⑤化学と生物オンライン保守運用契約、⑥奨励会・農芸化学会業務委託契約案、⑦会員管理業務委託契約、⑧大会附設展示会契約、⑨文献提供機関における複製物の送信等に係る管理委託契約、⑩農芸化学研究奨励会との合併手続きに関する諸実務の契約、⑪法律顧問委託契約、⑫事務所の火災保険契約

### [規程関連]

①会計処理マニュアルの変更、②委員及び幹事規程変更、③事務局分掌規程・決裁権限変更

### [和文誌・英文誌関連]

①海外（Research4Life（GroupAのみ）対象国）からの投稿者に対する掲載料の免除、②和文誌の配達および在庫保管業者の見直しの検討、③和文誌オンライン版のカスタマイズ案、④英文誌科研費補助金における実地検査報告、⑤和文誌執筆料謝金の見直し

### [その他]

①感染症対策に関する報告、②position paperについての学会としての考え方、③支部大会等参加費の決済システム導入、④農芸化学博士課程遂行支援制度案の検討、⑤学会センタービルの管理費に関する交渉、⑥ケルネルノートの適切な保管、⑦農芸化学会ジュニア教育賞、⑧会

費請求書書式の変更, ⑨学生支援に関する検討, ⑩日本学術会議との連携 (サイエンスカフェ共催), ⑪文書の電子化一元管理に関する検討, ⑫次期財務委員及び財務委員長の選出, ⑬証書ホルダー作成

[事務局関連]

①事務局長の退職, ②短時間勤務職員採用の検討, ③事務局改修, ④単発派遣導入

**8 男女共同参画委員会報告**

(1) 男女共同参画ランチョンシンポジウムの開催

2016年度札幌大会に於いて, 男女共同参画ランチョンシンポジウム (3月28日, 札幌コンベンションセンター, 参加者114名) を「私のしごと」と題して開催した。

(2) JST「日中女性科学者シンポジウム 2016 in Japan」への参加

4月6~7日に開催された日中女性科学者シンポジウム 2016 in Japan に本会から推薦した3名の女性会員が参加した。また初日の公開シンポジウムには委員長も参加した。本シンポジウムの見聞録を和文誌「化学と生物」に執筆した。

(3) 女子中高生夏の学校 2016への参加

8月6~8日に国立女性教育会館で開催された女子中高生夏の学校 2016 に委員長と会員1名が参加し, 本会の活動を紹介するポスター発表を行った。

(4) 男女共同参画学協会連絡会関係

1) 運営委員会への出席

第14期第3回運営委員会 (8月30日, お茶の水女子大学) に委員1名が出席した。

第15期第1回運営委員会 (12月13日, 東京大学) に委員1名が出席した。

2) シンポジウムへの参加

第14期シンポジウム (10月8日, お茶の水女子大学) 「国際的にみて日本の研究者の女性割合はなぜ伸びないのか?」の分科会2「女性のための賞の創設～その意義と効果を考える～」において, 委員長がパネル討論に参加した。また委員1名が本会の活動報告をポスターにて発表した。このシンポジウムの参加報告を本会ホームページにて公開した。

3) 属性調査報告

本会の2016年度の年次大会での一般講演発表者, シンポジウムのオーガナイザー・講演者等における女性比率を調査し, 連絡会へ報告した。

4) 第4回大規模アンケートの実施

連絡会が実施した第4回大規模アンケートについて, 本会会員の9.2%にあたる1,006人の回答があった。今後, 本会会員回答分のデータを取得, 解析して報告書を作成する。

5) 第4回大規模アンケートワーキンググループへの参加

連絡会第4回大規模アンケートワーキンググループのメンバーとして, 本会から委員4名が加わることとなった。

**9 合併等検討委員会報告**

合併等検討委員会は次の議題について議論した。

①外部アドバイザー, ②合併の手順の確認, ③日本農芸化学会と農芸化学研究奨励会の統合の方法 (吸収合併を決定), ④合併後の役員構成 (学会の役員をそのまま引き継ぐ), ⑤合併後の定款上の「目的」と「事業」(奨励会の事業を継承), ⑥最終承認機関による承認時期 (定時総会(5/26)), ⑦合併契約書案の検討, ⑧合併スケジュール案の確認

## ◀資料1▶

## 会員の状況

(2017年2月末現在)

会員種別	名誉	有功	シニア	一般	教育	学生	国外	団体	賛助 (口数)	小計
前年2月末	16	199	345	6,773	49	2,717	55	274	102 ( 215)	10,530
北海道支部	0	11	10	250	2	133	0	7	3 ( 3)	416
東北支部	0	11	12	394	10	200	0	21	2 ( 2)	650
関東支部	8	90	173	2,967	23	1,008	0	126	62 ( 145)	4,457
中部支部	2	12	36	886	9	408	0	36	8 ( 17)	1,397
関西支部	4	44	83	1,336	9	625	0	42	15 ( 28)	2,158
中四国支部	0	13	28	654	7	272	0	25	5 ( 5)	1,004
西日本支部	0	18	21	489	6	154	0	12	3 ( 3)	703
国外	1	0	0	13	0	1	58	0	0	73
合計	15	199	363	6,989	66	2,801	58	269	98 ( 203)	10,858
増減	-1	0	18	216	17	84	3	-5	-4 (-12)	328
入会	0	0	0	252	14	940	14	6	1 ( 1)	1,227
復会	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
会員種別変更	1	8	43	488	3	-538	-5	—	—	—
休会	0	0	0	-7	0	0	0	0	0	-7
退会	—	—	-18	-247	0	-213	-1	-3	-3 (-13)	-485
会費未納による退会	—	—	-2	-158	0	-103	-2	-8	-2 (- 5)	-275
会費滞納による退会	—	—	-1	-112	0	-2	-3	0	0	-118
会員資格停止	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
逝去	-2	-8	-4	-4	0	0	0	—	—	-18
口数変更	—	—	—	—	—	—	—	—	0 ( 5)	—
合計	-1	0	18	216	17	84	3	-5	-4 (-12)	328

## ◀資料2▶

## 会誌送付の状況

(2017年2月末現在)

	化学と生物 (第55巻, 第3号)		Biosci. Biotechnol. Biochem (第81巻, 第3号)	
	国内	国外	国内	国外
名譽会員	6	1	10	1
有功会員	69	0	11	0
シニア会員	232	0	11	0
一般会員	341	1	202	0
教学会員	66	0	1	0
学生会員	133	0	12	0
国外会員	0	10	0	21
賛助会員	98	0	98	0
団体会員	271	0	270	0
寄贈・交換	18	8	6	10
追加送本 <sup>※1</sup>	6	0	4	0
販売本壳 <sup>※2</sup>	650	0	0	140
広告用	20	0	0	0
事務局保存用	30	0	14	0
計	1,940	20	639	172
総計	1,960		811	
印刷部数	2,150		845	
残部	190		34	

※1 賛助会員に追加で送本しているもの(有料)

※2 和文誌を刊行している国際文献社、英文誌を刊行している Taylor & Francis 社がそれぞれ販売しているもの  
化学と生物は冊子体送本希望者にのみ配本。

## ◀資料3▶

## 「化学と生物」掲載頁数（下段は編数）

		第50巻 (2012年)	第51巻 (2013年)	第52巻 (2014年)	第53巻 (2015年)	第54巻 (2016年)
解説		351 46	348 46	323 44	351 48	358 48
講座・セミナー室		147 24	184 25	177 26	137 21	197 30
今日の話題		146 64	171 55	169 62	184 66	162 60
研究のスポット・ バイオサイエンススコープ		17 4	19 4	0 0	55 11	44 9
生物コーナー・化学の窓		21 4	25 5	63 12	19 4	10 2
トップランナーに聞く		10 2	0 0	0 0	11 2	6 1
海外だより・学界の動き		6 1	0 0	13 3	0 0	11 2
プロダクトイノベーション・ テクノロジーイノベーション		11 2	6 1	26 5	62 11	33 7
「化学と生物」文書館		108 17	40 6	0 0	0 0	0 0
農芸化学 @High School		25 11	25 9	28 10	34 12	9 3
特集号						67 17
その他（巻頭言、書評等）		90	30	30	31	35
印刷頁数（市販）		932	848	846	884	932
会告等		104	110	90	0	0
印刷頁数（会員配布）		1036	958	936	884	932

## ◀資料4▶

## 英文誌投稿状況・掲載状況

月	前年末	2016年													2017年			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	1	2	計	
手持数	227	205	208	216	216	218	177	177	179	163	143	148	178		169	153		
受理数		63	67	46	59	65	58	60	78	48	51	65	74	734	52	47	99	
掲載数	27	28	25	27	30	28	31	21	32	29	28	30	30	336	28	30	58	
返却数		30	39	38	32	33	40	39	44	35	43	30	44	447	33	33	66	
issue		80-02	80-03	80-04		80-05	80-06	80-07	80-08	80-09	80-10	80-11	80-12	81-01		81-02	81-03	

## ◀資料5▶

## 英文誌の掲載の状況

	受理 報文数	掲載 報文数	返却 報文数	年末手持 報文数	印刷 頁数	(内訳)		印刷部数
						投稿論文	索引など	
2012年	935	441	493	243	2434 (Vol. 76)	2368	66	1700 (Vol. 76, No. 12)
2013年	935	458	487	229	2594 (Vol. 77)	2520	74	1500 (Vol. 77, No. 12)
2014年	820	314	512	223	2212 (Vol. 78)	2134	78	1045 (Vol. 78, No. 12)
2015年	783	318	461	227	2170 (Vol. 79)	2096	74	960 (Vol. 79, No. 12)
2016年	734	336	447	178	2570 (Vol. 80)	2496	74	895 (Vol. 80, No. 12)
増減	-49	18	-14	-49	400	400	0	-65

\* 増減は 2015 年と 2016 年の比較